



一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837  
 長野市大字南長野字幅下667-6  
 長野県土木センター内  
 電話 026-235-3510  
 F A X 026-235-3583

◇令和6年農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点…… 1	◇話題の農薬「ルーチン®シードFS」…………… 6
◇なし・りんご中国産輸入花粉に対する対応について…… 3	◇植防短信…………… 7
◇イネ縞葉枯病の防除要否判定と苗箱施薬剤による防除技術…………… 4	◇地域情報…………… 7
	◇協会だより…………… 8

# 令和6年 農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点

農業技術課 副主任専門技術員 金子政夫

令和6年2月に発刊された「令和6年農作物病害虫・雑草防除基準」において、新たに普及に移す農業技術に採用された農薬や防除技術の追加・変更など、主な改正点を下表にまとめた。なお、紙面の都合上、農薬登録変更に伴う使用基準（使用時期や使用回数など）の変更や登録失効などは省略した。農薬の使用に際しては、ラベルの表示などを確認して正しく使用ください。

## 1. 病害虫防除に関する主な改正点

作物名	対象病害虫等	改正内容	改正理由等
水稲	ばか苗病	・【別表1】「トリフミン乳剤」の削除 ・【注意事項】3. 薬剤耐性菌対策の項目に「トリフルミゾール剤（トリフミン乳剤/水和剤）」を追記	削除 (耐性菌の出現)
	いもち病	【苗箱施薬、移植時】 ・移植時の防除方法に「オリゼメート顆粒水和剤を10a当たり500gになるようにペースト肥料に混合して側条施肥する」を追記 ・注意事項として「漏水田では使用しない。移植後は活着するまで湛水状態（水深3～5cm）に保つ。苗の活着遅延が予想されるような低温時期の移植は避ける。」を追記	再掲載
		【本田】 ・「葉いもちは初発前10日頃、穂・節いもちは出穂前20日頃」の防除方法に「メトミノストロピン含有粒剤（4%）の10a当たり3kg散布」及び注意事項に「薬剤耐性菌が出現しやすいため年1回の使用にとどめ、種子生産は場では使用しない」を追記	再掲載
麦類	黒節病	・は種前の防除方法に「シードラック水和剤20倍液に10分間浸漬処理」を追記 ・穂揃期以降の防除方法に「Zボルドー500倍液を10a当たり150ℓ、2回以上散布」を追記 ・上記2剤に共通する注意事項として「連作回避や晩播による耕種の防除を併用する」を追記	追加 (農薬情報)
	赤かび病	・開花期の防除方法に「水和硫黄フロアブル（イオウ、コロナ、サルファーゾル）400倍液、ミラピスフロアブル1,500倍液、ワークアップフロアブル2,000倍液」を追記	追加 (農薬情報)
スイートコーン（未成熟とうもろこし）	アワノメイガ	・雄穂出穂始期～揃期の防除方法に「オルトラン水和剤1,000倍液、ベネビアOD 4,000倍液」を追記	追加 (農薬情報)
だいず	マメシクイガ	・8月中旬～9月上旬（幼莢期～子実肥大中期）の防除方法に「グレーシア乳剤3,000倍液」及び注意事項（魚毒）を追記 ・表1「マメシクイガに対する各薬剤の散布適期」にグレーシア乳剤を追記	追加 (農薬情報)
あずき	アブラムシ類（モザイク病）	・発芽期以降の防除方法に、参考農薬として「スミチオン乳剤又はトレボン乳剤の1,000倍液を10a当たり200ℓ散布する」及び注意事項（トレボンのみ蚕毒、魚毒）の追記	追加 (参考農薬)
りんご	モモシクイガ	・6月中旬頃の発生病害虫名の記載順位を上げ、ゴシック表記に変更（温暖化に伴う発生時期の早期化）	追加 (技術情報)
	炭疽病・輪紋病	・7月上旬頃の防除方法に「ツインバリアー水和剤100g」を追記	追加 (農薬情報)
	ハダニ類	・【別表-3】に「ダニオーテフロアブル1,000～2,000倍液」を追記。 ・注意事項8として「有機銅水和剤散布から30日程度の近接散布で効果が不十分になる場合があるので、45日以上空けて使用する。有機銅水和剤散布から30日程度空けることができず、かつハダニ類の密度が高い場合は、登録希釈倍数の範囲の高い濃度で使用する」を追記 ・薬害注意事項37として「銅を含む製剤との混用及び近接散布で防除効果が低下するおそれがあるので、銅剤とは混用しない。また、本剤散布後に銅剤を使用する場合は、10日以上の間隔を空ける。無機銅剤散布後は使用しない」を追記 ・蚕、魚に対する注意事項45として、魚毒への注意を追記	追加 (農薬情報)

ぶどう	チャノキイロ アザミウマ	・【別表-3】及び「シャインマスカット」の落花直後（6月中下旬）に「グレーシアフロアブル4,000倍液（25ml）」を追記 ・葉害防止の注意事項23「蚕毒が特に強いので桑園付近では使用しない（特別指導事項参照）」、葉害防止の注意事項24「果粒の小豆大期以降の散布で果粉溶脱を生じやすいので注意する」、葉害防止の注意事項30に「魚毒が強いので注意する」にグレーシアを追記	追加 (農薬情報)
もも・ ネクタリン	コスカシバ	・発芽前の注意事項に記載があった「フェニックスフロアブル500倍液の樹幹・主枝散布」を、開花始めの注意事項へ移動（前年の夏に散布したフェニックスとの連用を回避） ・関連して、落花後の注意時期に記載の「フェニックス顆粒水和剤4,000倍液」を削除（開花始めのフェニックスとの連用回避）	変更
くるみ	褐斑病（仮称）	・5月～9月の防除方法に「被害落葉が第一次伝染源になるので集めて焼却又は土中に埋没する」を追記	追加 (重要病害)
	カミキリムシ類	・5月～9月の防除方法に「ロビンフッド(エアゾル剤)」及び注意事項(使用回数、使用上の注意及び蚕毒)を追記	追加 (農薬情報)
キウイフルーツ	クワシロ カイガラムシ	・6月上中旬、8月上中旬の防除方法に、参考農薬として「モスピラン顆粒水溶剤2,000倍液」及び注意事項(蚕毒)を追記	追加 (参考農薬)
トマト・ ミニトマト	かいよう病	・生育期間の防除方法に「カスガイマイシン・銅水和剤(カスミンボルドー、カップパーシ)1,000倍液」、並びに「マスタピース水和剤2,000倍液」及び注意事項(生物農薬の注意点)を追記	追加 (農薬情報)
トマト	黄化葉巻病 (TYLCV)	・生育期間の防除方法として、以下を追記 1. 健全苗を導入する。 2. タバココナジラミを防除する。 3. 周辺雑草は伝染源となるので、定期的に除草するなど場衛生に努める。 4. 発病株は抜き取り、ビニール袋などに入れ密封し(40℃、10日以上)、完全に枯死させ土中に埋却する。 5. 施設では、戸窓に防虫ネット(0.4mm目合い)を張って媒介虫の侵入を防ぐ。 ・注意事項として、以下を追記 1. 本ウイルスは、タバココナジラミにより伝搬される。 2. トマト黄化葉巻病に似た症状を発見したら、速やかに病害虫防除所又は最寄りの農業農村支援センターへ連絡する。	追加 (地区報)
いちご	アザミウマ類	・生育期間の防除方法に「スワルスキーカブリダニ剤(パック製剤)を10aに200個の割合で設置する」を追記 ・注意事項として、以下を追記 1. 本剤はアザミウマの発生前～発生初期に設置する 2. 夏秋いちごでは開花前の設置が望ましい 3. 低温に弱いため遅霜に注意する 4. 農薬の散布に当たっては天敵に影響の小さい薬剤を使用する	追加 (農薬情報)
キャベツ	べと病	・生育期間の防除方法に「ランマンフロアブル2,000倍液」及び注意事項(同一系統薬剤の連用回避、ローテーション散布)を追記	追加 (農薬情報)
	軟腐病	・本業10葉期以降の防除方法に「カスミンバリダシン液剤800倍液」及び注意事項(アルカリ性薬剤との混用回避、杉(特に苗木)・れんこん・だいず・きく(秀芳の力など)・トマトの薬害回避)を追記	追加 (農薬情報)
カリフラワー	コナガ	・【別表】に「ディアナS C2,500倍液」を追記	追加 (農薬情報)
はくさい	黒斑病	・結球初期以降の防除方法に「ネクスターフロアブル1,000倍液」と注意事項(魚毒ほか)を追記	追加 (農薬情報)
	キスジノミハムシ	・育苗期から収穫期までの防除方法に「プロフレアS C4,000倍液」及び注意事項(蚕毒、魚毒)を追記	追加 (農薬情報)
ねぎ	軟腐病	・生育期間の防除方法に「オリゼメート粒剤を6kg/10a土寄せ時に株元散布する」及び注意事項(多肥の回避、土寄せ時に株を傷つけない)を追記	追加 (農薬情報)
	ネダニ類	・生育期間の防除方法に「グレーシア乳剤2,000倍液を1㎡当たり1ℓ、株元灌注する」及び注意事項(蚕毒、魚毒)を追記	追加 (農薬情報)
だいこん	白さび病	・生育期間の防除方法に「ハチハチ乳剤、ランマンフロアブルの2,000倍液」、並びに注意事項(ハチハチ乳剤のみ蚕毒、魚毒)を追記	追加 (農薬情報)

## 2. 雑草防除に関する主な改正点

作物名	対象雑草	改正内容	改正理由
水稲 (移植栽培)	ヒエに加えて一年生雑草、ホタルイなどの残草があった場合	・中・後期除草剤に「ツイゲキ豆つぶ250」を追記	追加 (農薬情報)
	オモダカ多発田	・初中期除草剤のノビエ3～4葉期剤に「クサウエボンジャンボ、クサウエボン1キロ粒剤、サキガケ楽粒、イネリーグフロアブル」を追記	追加 (農薬情報)
	クログワイ多発田	・初中期除草剤のノビエ3～4葉期剤に「クサウエボンジャンボ、クサウエボン1キロ粒剤、サキガケ楽粒」を追記	追加 (農薬情報)
	雑草イネ発生田	・初中期除草剤に「アカツキ1キロ粒剤、サラブレットGOジャンボ、サラブレットGO400FG」を追記 ・水稲刈り取り後の除草剤に「粒状石灰窒素55」を追記。補足として「本剤は土壌表面の雑草イネを死滅させる効果があり、詳細な使用法は平成30年度普及技術を参照する」を追記	追加 (農薬情報)
飼料用イネ (移植栽培)	ノビエなどの一年生雑草	・初中期除草剤に「イネリーグフロアブル、クサウエボン1キロ粒剤、クサウエボンジャンボ、サラブレットGOジャンボ、サラブレットGO400FG、ジャイロフロアブル、ツイゲキ豆つぶ250」を追記	追加 (農薬情報)
だいず	帰化アサガオ類が多い場合	・は種前に「トレファノサイド乳剤300mlを全面土壌処理し散布直後に耕起」を追記	追加 (農薬情報)

# なし・りんご中国産輸入花粉に対する対応について

農業技術課環境農業係  
園芸畜産課果樹・花き係

## 1 中国における火傷病の発生確認

火傷病菌 (*Erwinia amylovora*) は、りんご、なし等のバラ科植物に感染し、大きな被害をもたらす植物病原細菌である。感染した植物は、火にあぶられたような症状を示すため、それが病名の由来となっている。

我が国は、本細菌の発生国・地域からの宿主植物の生植物（種子を除き、生果実、花及び花粉を含む）の輸入は認めていない。

こうした中、これまで発生国とされていなかった中国において、火傷病が発生していることが確認されたため、我が国は、令和5年8月30日付けで中国からの宿主植物の輸入を停止した（農林水産省プレスリリース参考）。

## 2 火傷病について

### (1)学名

*Erwinia amylovora*

### (2)発生国

地域：韓国、中国、イスラエル、トルコ、イタリア、英国、オランダ、ドイツ、フランス、エジプト、米国、カナダ、メキシコ、ニュージーランド等

### (3)生態

本細菌は、枝や幹に形成された「かいよう病斑」で越冬する。翌春に気温が上昇すると急激に増殖して病斑から細菌泥（ゼリー状の物質）を漏出し、それが一次感染源となり、媒介昆虫や風雨によって花や新梢に伝搬する。花器感染の場合、柱頭から侵入し、感染する。新梢感染の場合、傷口や気孔等の開口部から侵入し、感染する。その後、感染は、花や新梢から枝、幹へと樹全体に広がり、枝枯れ、かいよう病斑等を引き起こす。（図1、2）また、病斑が拡大し、病徴が激しくなると、葉、果実、枝等からも細菌泥を漏出し、それが二次感染源となる。



図1：火傷病の病徴（花）



図2：火傷病の病徴（枝）

## (4)移動・分散方法

本細菌は、風雨、ミツバチやハエ等の媒介昆虫によって伝搬する。また、感染した苗木の植え付け、感染した穂木の接ぎ木、せん定作業や農機器具の汚染等の人為によっても伝搬する。

## (5)識別のポイント

火傷病と類似の症状として、りんごでは、モニリア病、疫病、腐らん病、輪紋病、胴枯病等、なしでは、花腐細菌病、疫病、胴枯病、枝枯病、輪紋病、さび色胴枯病等がある。火傷病の典型的な症状として、細菌泥の漏出を伴うことが多い。特に、花、幼果、新梢又は新葉には、この症状が顕著に現れる。

健全部と病斑部の境界部分から試料を採取して、プレパラート標本を作製し、細菌が植物組織から流出する様子を観察することにより、糸状菌による病害であるか又は細菌による病害（火傷病を含む）であるかを簡易的に識別できる。

## (6)発見した場合の対応

本細菌の感染が疑われる植物及び周囲の様子の写真を撮影した上で、病害虫防除所又は、最寄りの農業農村支援センターにお知らせください。

## 3 本県における中国産輸入花粉に対する対応

### (1)対応指針の作成と状況把握

万が一、火傷病疑似症状が発生した場合に備え「火傷病疑似症状の対応指針」を策定するとともに、関係機関の協力のもと産地における中国産輸入花粉の在庫状況の調査と、栽培ほ場における疑似症状の把握を実施したが疑似症状の確認は無かった。

### (2)中国産輸入花粉の回収及び廃棄

#### ①県の方針

中国での火傷病の発生確認により、なし・りんごに活用する中国産花粉に火傷病の原因菌が付着している恐れが生じたため、火傷病の発生を未然に防止することを目的とし、国や県内の輸入花粉販売事業者（JAグループ含む）との連携により、生産者が保存している中国産輸入花粉について、生産年度を問わず買い取りを行い処分することとした。

#### ②周知

関係機関と協力して中国産輸入花粉の回収に関する周知を実施。在庫状況調査の結果をベースとし、輸入花粉販売事業者から購入者に対する直接のアプローチや、ネット販売による購入者等へも広く情報が伝わるよう、県プレスリリースによる新聞各紙の報道や、県ホームページへの掲載等により、中国産輸入花粉を使用しないで頂きたい旨を周知した。

#### ③回収

周知活動により、中国産輸入花粉を保有していることが明らかになった生産者に対し、販売事業者及び、農業農村支援センターが回収を実施した。（図3）

#### ④買取及び廃棄

県が国の消費・安全対策交付金を活用し、中国産輸入花粉の保有者から県が花粉の買取を行い、焼却により廃棄を行うこととし、準備を進めている。（令和6年2月現在）

表 1：中国産輸入花粉の回収量 (単位：g)

	なし	りんご	
純花粉	24,489	純花粉	23,400
粗花粉	22,709	粗花粉	11,648
合計	47,198	合計	35,048

(農業技術課調べ)



図 3：花粉回収の様子

#### 4 令和 6 年産受粉用花粉確保に向けた取組

##### (1) 状況把握

国の中国産花粉輸入停止措置に伴い、令和 6 年産以降のりんご・なし生産量維持に向けた対応が急遽必要となった。

県内における中国産花粉取扱量を調査し、県内栽培面積のうち、りんごで4.1%、なしで17.5%が影響を受けるということが、輸入停止措置後の調査で明らかとなった(表 2)。

表 2：令和 5 年産の中国産花粉購入量及び輸入花粉使用面積

品目	主な産地	令和 5 年結果樹面積	輸入花粉使用面積	生産面積に占める輸入花粉利用割合
りんご	県内全域	6,677ha	273ha	4.1%
なし	南信州、上伊那、松本、長野、北信	640ha	112ha	17.5%

(園芸畜産課調べ)

##### (2) 県の対応

県内各地の状況から、県で統一した花粉確保体制の整備よりも、各産地の実情に応じた体制整備が必要と考え、花粉確保対策のための技術情報や考えられる対策を毎年 1 月に開催している「うまいくだもの中央講習会(主に技術員向け)」を始め、各産地での検討会や研修会において周知を行ってきた。(図 4、5)

##### (3) 今後について

花粉確保の一丁目一番地として、受粉樹の新植が重要であることから、南信農業試験場で育成した、なし台木+穂木セットの幹旋要望調査を行った結果、約600本の要望があり、本年 4 月から配布し、生産者の園地に新植される予定となっている。

現状、各産地での対応についての検討の結果、①

新たに開薬場を開設、②休眠枝等の早期開花処理による花粉確保、③既存受粉樹からの花粉採取の推進などの対応が行われ、生産に必要な花粉量を確保できる見込みと考えている。

今後は、令和 6 年度の長野県や他県の状況を注視し、果樹産地基盤維持のため、短期的な対応と長期的な対応の両方を実施していけるよう支援をしていく。



図 4：花粉確保研修会(令和 6 年 2 月)

図 5：生産者向けのチラシ

##### <参考>

病害虫情報増刊 1 号(2023.10.31:植物防疫所)

<写真提供(図 1 及び 2)>

長野県農業試験場岩波靖彦環境部長

## イネ縞葉枯病の防除要否判定と 苗箱施薬剤による防除技術

農業試験場 阿曾和基

##### 【はじめに】

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカによって媒介されるイネ縞葉枯ウイルスが引き起こすウイルス病で、イネの重要病害である。長野県では1990年代から2017年までほぼ発生がみられなかったが、2018年に東信の一部地域で確認されて以降、発生面積は

徐々に増加している。現状では水稲作付面積の0.5%程度の発生に留まっているが、イネ縞葉枯病は一度流行期に入ると沈静化に時間を要するとされていることから、効果的・効率的な防除対策を検討する必要がある。

**【病 徴】**

葉身では葉脈に沿って黄緑色～黄白色の縞状斑紋を生じ(図1)、葉が巻き込んで垂れ下がりが正常に展開しなくなる。生育初期に感染すると分けつが少なく株全体に症状が現れて、こより状に垂れ下がった抽出葉が多く生じる「ゆうれい症状」となり、症状が重い場合は萎縮、枯死する。生育初期～中期に感染すると、出穂しないか、出穂しても出すくみ、白化、しいな(不稔)となる(図2)。収穫後のひこばえ(再生稲)にも葉の黄化等の症状がみられる。発病してからは治療的に防除することはできない。



図1 葉の縞状斑紋



図2 穂の出すくみ

**【被 害】**

イネ縞葉枯病の症状が現れた穂は稔実しないため、発病した穂の分だけ収量が減少する。

イネ縞葉枯病の発生程度別に10aあたりの損失額を算出したところ、少発生では1,200円程度であったが、中発生で5,000円を超える被害と推定され、中発生以上で経済的被害が問題となると考えられた。

**【防除対策と課題】**

防除対策として苗箱施薬剤が有効であり、本県においてはオキサズスルフィル(代表的な商品名、アレス)、トリフルメゾピリム(同ゼクサロン)、ピメトロジン(同チェス)及びフルピリミン(同リディア)のいずれかを含有する苗箱施薬剤はヒメトビウンカに高い防除効果を示し、イネ縞葉枯病の発生を抑制する(令和2年第2回、令和3年度第2回、令和4年度第1回農薬情報)。ただ、苗箱施薬剤は水稲作付け前に選択する必要があるため、前年の発生状況等から防除要否を判断できることが望ましい。そこで、前年のイネ縞葉枯病等の発生状況とその翌年の発生との関係を検討し、防除要否判断の目安となる基準を策定した(図3)。

**【防除判定目安と防除対策】**

前年の水稲登熟中期頃のイネ縞葉枯病発病株率30%または媒介虫ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率10%を超えた場合には、上述の苗箱施薬剤を使用する。

発病株率は、地域内の複数圃場を対象に8月下旬頃に調査する。調査方法は、各圃場の中庸な1辺を選び、畦畔を歩きながら100株について発病の有無を達観で調査し、発病株率を算出する。

各地のヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、農作物病害虫発生予察事業年報等に掲載される病害虫防除所の調査結果を参考とする。

ヒメトビウンカは地域を超える移動は少ないが、ある程度の距離は移動すると考えられることから、判定は圃場単位ではなく、地域の発生状況を踏まえたうえで、総合的に判断する。また、本病ウイルスは卵を通して次世代幼虫にも移行(経卵伝染)するため、一度多発した地域ではヒメトビウンカの保毒虫率はすぐには下がらないと考えられることから、目安を超えた場合は複数年継続して対策を行う。

なお、防除判定目安は超えないが、前年のイネ縞葉枯病発病株率15%またはヒメトビウンカ保毒虫率6%を超える場合は、経済的被害は小さいものの発病がみられ始めることが多くなるため、その翌年のイネ縞葉枯病の発生状況を注視する。

**【麦類作付けとの関係】**

麦類栽培地域でヒメトビウンカは増殖しやすく、麦類栽培の少ない地域と比較してイネ縞葉枯病が多発傾向にあるとされている。本県でのヒメトビウンカの水田内発生程度と麦類作付けとの関係について検討したところ、麦類作付けがある地域では捕獲数や捕獲地点率が多くなる傾向がみられた。このため、麦類を作付けする地域では、イネ縞葉枯病の発生動向を注視する。

①イネ縞葉枯病発病株率 30%以上 又は  
ヒメトビウンカ保毒虫率 10%以上  
→以下有効成分を含む苗箱施薬剤を使用して  
ください。  
・オキサズスルフィル(アレス等)  
・トリフルメゾピリム(ゼクサロン等)  
・ピメトロジン(チェス等)  
・フルピリミン(リディア等)

②イネ縞葉枯病発病株率 15~30%未満 又は  
ヒメトビウンカ保毒虫率 6~10%未満  
→ヒメトビウンカ対象の薬剤防除は不要ですが、  
今後の発生状況に注意してください。

③イネ縞葉枯病発病株率 15%未満 又は  
ヒメトビウンカ保毒虫率 6%未満  
→ヒメトビウンカ対象の薬剤防除は不要です。

※判定は圃場単位でなく、地域の発生状況を踏まえたうえで、総合的に判断してください。  
※発病が多い地域で上記の苗箱施薬剤を現在使用している場合は、発病の状況に関わらず防除を継続してください。

図3 防除要否判断目安と防除対策

## 話題の農薬

## ルーチン®シードFS

- ・種類名：イソチアニル水和剤
- ・有効成分：イソチアニル…41.7%
- ・登録番号：第24194号



↑商品ページはこちら↑



バイエル シードグロース™  
水稲種子処理が農業を変える

## ・ルーチンシードFSとは

ルーチンシードFSは有効成分イソチアニルを含有する水稲種子処理専用殺菌剤です。ルーチンシードFSを水稲種籾に直接処理することにより、いもち病や白葉枯病などに対して箱施用剤と同等の効果、残効性を発揮することができる全く新しい、画期的な処理方法です。

## ・特長

有効成分イソチアニルは浸透移行性に優れ、長い残効性を有しています。本剤は種籾に直接処理するため短時間で簡便に薬剤処理が可能で、全ての種籾に処理することにより高密度播種条件下でも安定した効果が期待できます。また、農閑期に処理することで年間を通した作業の平準化に貢献します。

## ・登録内容（2024年2月現在）

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病	乾燥種もみ 1 kg当り 原液 6～12mℓ (原液71mℓ/10aまで)	は種前(浸種前)	1回	塗沫処理 (種子被覆剤を加用)  コーティング中 またはコーティング後 の種もみに塗沫処理	3回以内 (直播では種時 または移植まで の処理は1回以内、 本田では2回以内)
	いもち病		は種前(浸種後)			

## ・処理方法

種子処理の方法には浸種前の乾籾に薬剤処理する「は種前（浸種前）の塗沫処理」、浸種後の種籾に薬剤処理する「は種前（浸種後）の塗沫処理」の2つの方法があります。なお、浸種後の種籾に処理する場合は、「コーティング中」もしくは「コーティング後」の処理が可能です。

「は種前（浸種前）処理」は、予措を行う前の乾燥した種籾に処理する方法で、浸種時に処理済種籾から浸漬水への有効成分の流亡を軽減するために専用の種子被覆剤（例：ペリディウムクオリティ009）を加用して処理する必要があります。薬剤処理する際には、コンクリートミキサーなどの混和機を使用して種籾に薬剤が均一に付くように処理してください。



コンクリートミキサーで処理をする様子

## ・最後に

バイエルクロップサイエンスは持続可能な農業のために、環境への負荷を減らしながら農家さんの作業時の安全性を向上し、さらには農作業における負担を減らし効率を向上させる製品をお届けすることに注力しています。今回ご紹介したルーチンシードFSや種子処理技術に関する情報は、弊社ホームページのバイエル シードグロースでより詳しい情報を発信しております。以下のURLをご確認ください。

[https://cropscience.bayer.jp/ja/home/product/seed\\_growth/#06](https://cropscience.bayer.jp/ja/home/product/seed_growth/#06)



薬剤処理した種籾

## 植防短信

### 長野県農薬安全コンサルタント協会 総会開催される

(一社)日本植物防疫協会主催の研修を終了した者で組織する長野県農薬安全コンサルタント協会(会長 廣田圭亮:会員数77名・長野県農薬卸商業協同組合の内部組織)の令和6年度(第45回)通常総会が1月24日に長野市で開催されました。

総会に先立ち、殺鼠剤専門のメーカーである大丸合成薬品株式会社(長野市松代町豊栄)品質管理部長の松下明文氏により「殺鼠剤について」と題して、

自社製品の「ラットシードF」(令和2年10月農薬登録)を主とした解りやすい講演がありました。

「ラットシードF」の特長として①ネズミがよく食いつくこと②全農地、倉庫(納屋)で使えること③普通物であり取扱いと安全性に優れていること等について動画を使った説明がありました。地元長野県の農家のご協力のもと、効果試験を重ねて生まれた製品です。

引き続き総会が開催され、令和5年度事業報告並びに決算、令和6年度事業計画並びに収支予算書等が承認されるとともに、各種啓発資料等をフル活用して、すべての農薬使用者に対する農薬の安全かつ適正使用の推進を確認しました。

(長野県農薬卸商業協同組合 近藤弘利)

## 地域情報

### R5年度 セルリー疫病対策の 取組について

諏訪地域は、生産量全国1位のセルリー産地です。令和3年、当地のセルリーに「セルリー疫病(学名: *Phytophthora tentaculata*)」が国内初確認され、登録農薬がないなか生産者は対策に苦慮しています。諏訪農業農村支援センターでは、当病害の発生当初から、JAと連携した発生実態の把握やアンケート調査を行い、防除対策の確立に向けて県野菜花き試験場と実証試験に取り組んでいます。

また、令和5年度からは、センターの重点活動課題に同病害対策を位置づけ、栽培管理と疫病発生の関係性や亜リン酸肥料の被害軽減効果を確認するための実証試験等を実施しました。調査の結果、育苗床で疫病が発生していた農家では、同未発生の農家に比べてほ場での疫病的発生率が顕著に高いことがわかりました。一方、亜リン酸肥料の実証試験では、“亜りん酸粒状1号”を株元に散布したことで疫病発生を抑える傾向がみられました。

本年度の取組みから、疫病対策としては、まずは病原菌を持ち込まないクリーンな育苗管理が必須であり、ほ場で増やさないためには、亜リン酸肥料の適切な使用による予防が重要であると考えられました。これらの内容については、令和6年1月に開催されたJAセルリー生産者大会でも周知を行いました。

今後、農薬登録が見込まれていますが、疫病対策には農薬のみに頼らない耕種的防除が重要であるた

め、引き続き現在の対策を組み合わせた総合防除の推進に取り組んでいきます。

(諏訪農業農村支援センター 木村美春)



### アスパラガス10億円産地を目指して —上伊那アスパラガス生産振興大会が 開催されました

上伊那農業生産振興協議会では、2月2日に上伊那アスパラガス生産振興大会を開催し、約100名の生産者が参加しました。JA上伊那では、アスパラガスの生産額を10年後に現状の約3倍の10億円にする目標を掲げており、そのための共選施設の建設等生産拡大への対応が進められています。

本大会では、販売情勢や生産整備の状況等の説明が行われ、技術対策として排水性の改善やかん水の重要性について報告がありました。上伊那農業農村支援センターでは、水田転作畑での排水性改善対策について調査研究結果を報告しました。

アスパラガスを定植した後では、大規模な土木工事はできないので、ハウス内にエンジンオーガを用いて縦孔を掘り、モミガラを埋設することで、排水性の改善が見られました。

JA上伊那が目指すアスパラガス10億円産地の達成に向け、これからも関係機関と連携して取組を進めてまいります。

(上伊那農業農村支援センター 田中敬志)



## 協会だより

●令和6年版「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」販売中【800円（消費税込み、送料別途）】

※ 問い合わせ・ご注文先：(一社)長野県植物防疫協会事務局

### ○ 掲載内容訂正のお知らせ

掲載内容に誤りがありましたので、既に購入された方は下表に基づき訂正をお願いします。なお、とうもろこしに農薬を使用する際は防除基準の85ページ表1「農薬登録の適用農作物名とスイートコーン、子実とうもろこし、ヤングコーンへの使用可否」と農薬ラベルを確認し、適切に使用してください。

項目	正	誤（現行）																														
目次	IV 普通作物 1. 2. 3. スイートコーン (未成熟とうもろこし) .....84	IV 普通作物 1. 2. 3. とうもろこし (スイートコーンを含む) .....84																														
P84 タイトル	3. スイートコーン (未成熟とうもろこし)	3. とうもろこし (スイートコーンを含む)																														
P84 本文	・殺虫剤 (参考農薬)	・殺虫剤 (参考農薬)																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>IRACコード</th> <th>薬剤名</th> <th>使用方法</th> <th>使用時期</th> <th>使用回数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6</td> <td rowspan="2">アファーム乳剤</td> <td rowspan="2">散布</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>2回以内</td> <td rowspan="2">とうもろこし (子実)</td> </tr> <tr> <td>収穫30日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table>	IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考	6	アファーム乳剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	とうもろこし (子実)	収穫30日前まで	2回以内	<table border="1"> <thead> <tr> <th>IRACコード</th> <th>薬剤名</th> <th>使用方法</th> <th>使用時期</th> <th>使用回数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">6</td> <td rowspan="3">アファーム乳剤</td> <td rowspan="3">散布</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>2回以内</td> <td rowspan="3">とうもろこし (子実)</td> </tr> <tr> <td>収穫30日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table>	IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考	6	アファーム乳剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	とうもろこし (子実)	収穫30日前まで	2回以内	収穫前日まで	2回以内
IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考																											
6	アファーム乳剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	とうもろこし (子実)																											
			収穫30日前まで	2回以内																												
IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考																											
6	アファーム乳剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	とうもろこし (子実)																											
			収穫30日前まで	2回以内																												
			収穫前日まで	2回以内																												
P85 ヘッダー	－スイートコーン－	－とうもろこし－																														
P297 18.キハベツ	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">・殺菌剤</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">21</td> <td rowspan="2">ランマンフロアブル</td> <td>灌注</td> <td>定植前日～当日</td> <td>1回</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>散布</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>4回以内</td> </tr> </tbody> </table>	・殺菌剤						21	ランマンフロアブル	灌注	定植前日～当日	1回		散布	収穫3日前まで	4回以内	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">・殺菌剤</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">21</td> <td rowspan="2">ランマンフロアブル</td> <td>灌注</td> <td>定植前日～当日</td> <td>1回</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>散布</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>4回以内</td> </tr> </tbody> </table>	・殺菌剤						21	ランマンフロアブル	灌注	定植前日～当日	1回		散布	収穫3日前まで	4回以内
・殺菌剤																																
21	ランマンフロアブル	灌注	定植前日～当日	1回																												
		散布	収穫3日前まで	4回以内																												
・殺菌剤																																
21	ランマンフロアブル	灌注	定植前日～当日	1回																												
		散布	収穫3日前まで	4回以内																												

### 【行事】

- 1月22、23日 試験研究推進会議病虫部会 (長野市)
- 1月29、30日 試験研究推進会議果樹部会 (長野市、須坂市、Web)
- 1月29、30日 試験研究推進会議野菜花き部会 (塩尻市)
- 2月1、2日 試験研究推進会議作物部会 (須坂市、Web)
- 2月13、16日 農薬管理指導士更新研修会 (Web)
- 2月14日 第2回普及技術検討会 (塩尻市)

- 2月15日 令和6年度農薬等展示ほ設置打合せ会議 (長野市)
- 2月15、16日 都道府県植防協会主任試験員等打合せ会議 (千葉県鴨川市)
- 2月21、22日 農薬指導管理士養成研修会 (松本市、Web)

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。URLは <https://www.nagano-ppa.jp/kaiho.html> です。